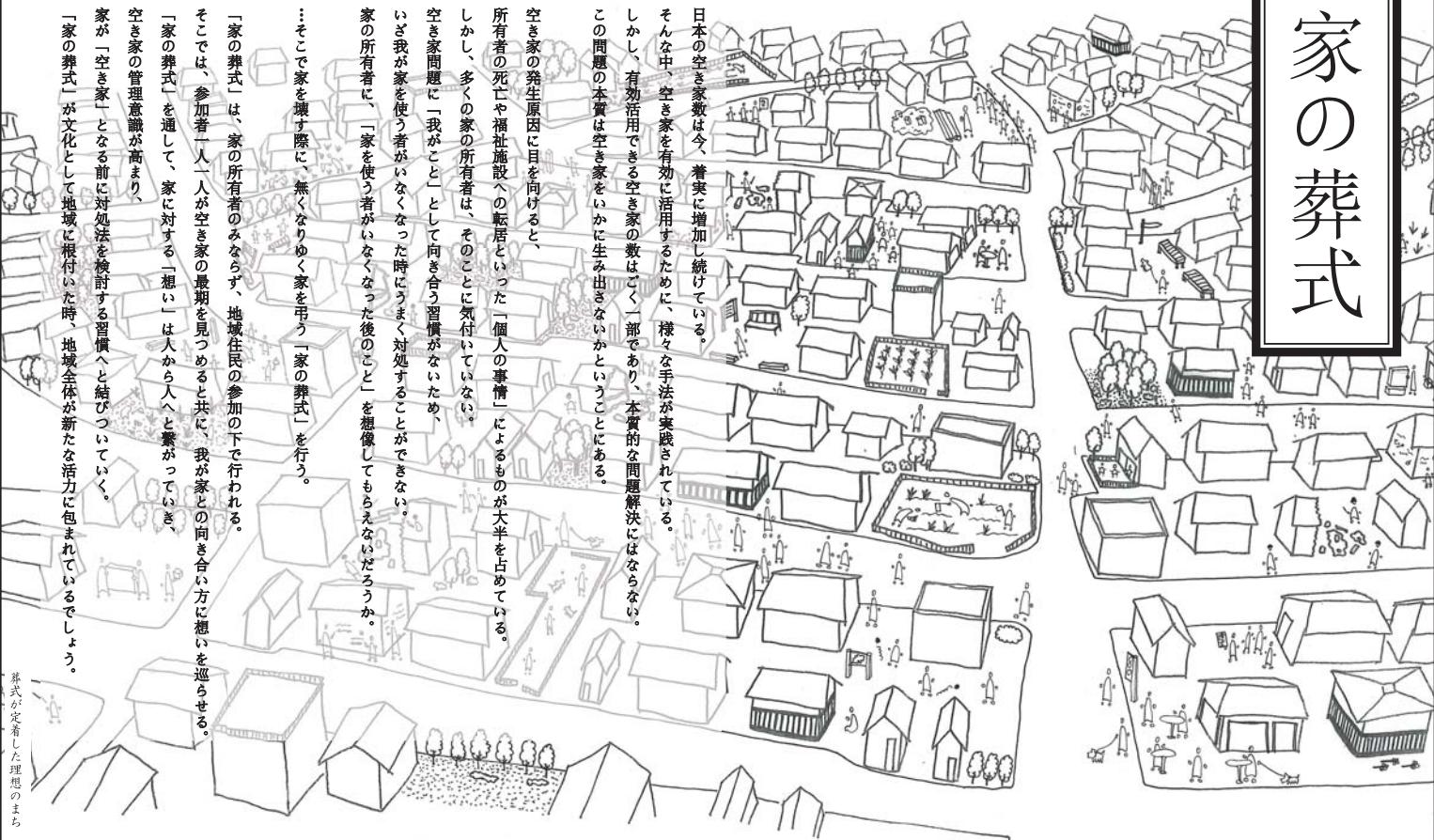


家の葬式



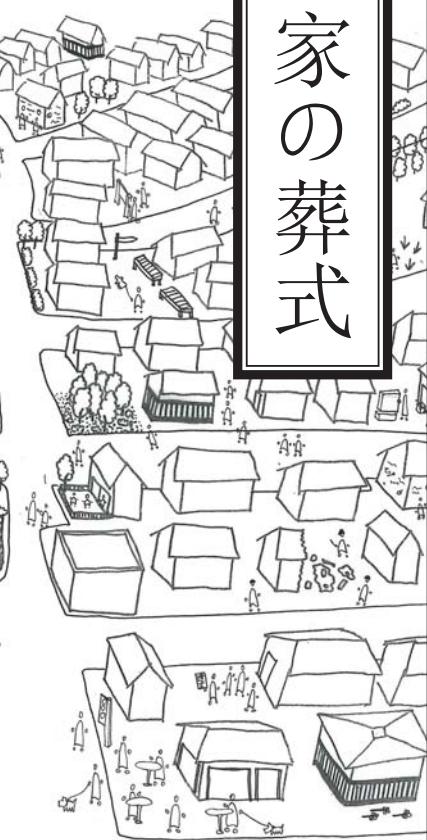
葬式が定着した理想地のままである。

空き家の発生原因に目を向けると、所有者の死亡や福祉施設への転居といった「個人の事情」によるものが大半を占めている。しかし、多くの家の所有者は、そのことに気付いていない。空き家問題に「我がこと」として向き合う習慣がないため、いざ我が家を使う者がいなくなつた時にうまく対処することができない。

家の所有者に、「家を使う者がいなくなつた後のこと」を想像してもらえないだろうか。そこで家を壊す際に、無くなりゆく家を弔う「家の葬式」を行う。

「家の葬式」は、家の所有者のみならず、地域住民の参加の下で行われる。そこでは、参加者一人一人が空き家の最期を見つめると共に、我が家のとの向き合ひ方に想いを巡らせる。

「家の葬式」が文化として地域に根付いた時、地域全体が新たな活力に包まれているでしょう。



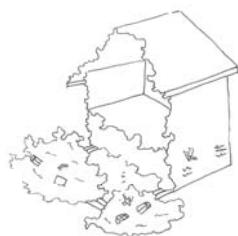
五、空き家
時は終り、家は「空き家」となる。家に対する感謝は、家に対する感謝と敬意のため、葬式を企画する。

六、通夜
家の関係者は思い出の品などを整理し、家との別れを惜しむ。

七、告別式
家主らが式の参加者へ、家に対する感謝や竣工から空き家になるまでの家の歴史などを伝える。



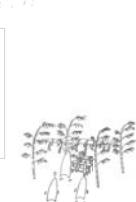
一、地鎮祭
土地の神様を鎮め工事の安全と土地の盤石を祈る。



八、葬送
式の参加者は家と最期の別れを告げる。そして、家は解体される。



九、著陵
解体された家に対し敬意を払い、黙祷をささげる。



十、粉骨
式に参加した同士で家の廢材の活用について語り合ひ、ベンチや看板など、新たなものを生み出す。

